

## 第2章 各学科に共通する各教科

### 第1節 国 語

#### 第1款 目 標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

#### 第2款 各 科 目

##### 第1 現代の国語

###### 1 目 標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

###### 2 内 容

〔知識及び技能〕

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。  
ア 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解すること。

- イ 話し言葉と書き言葉の特徴や役割，表現の特色を踏まえ，正確さ，分かりやすさ，適切さ，敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し，使うこと。
- ウ 常用漢字の読みに慣れ，主な常用漢字を書き，文や文章の中で使うこと。
- エ 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに，語句や語彙の構造や特色，用法及び表記の仕方などを理解し，話や文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにすること。
- オ 文，話，文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。
- カ 比喩，例示，言い換えなどの修辞や，直接的な述べ方や婉曲的な述べ方<sup>えん</sup>について理解し使うこと。
- (2) 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。
- イ 個別の情報と一般化された情報との関係について理解すること。
- ウ 推論の仕方を理解し使うこと。
- エ 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。
- オ 引用の仕方や出典の示し方，それらの必要性について理解を深め使うこと。
- (3) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めること。
- [思考力，判断力，表現力等]
- A 話すこと・聞くこと
- (1) 話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 目的や場に応じて，実社会の中から適切な話題を決め，様々な観点から情報を収集，整理して，伝え合う内容を検討すること。
- イ 自分の考えが的確に伝わるよう，自分の立場や考えを明確にするとともに，相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど，話の構成や展開を工夫すること。
- ウ 話し言葉の特徴を踏まえて話したり，場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど，相手の理解が得られるように表現を工夫す

ること。

エ 論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。

オ 論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 自分の考えについてスピーチをしたり、それを聞いて、同意したり、質問したり、論拠を示して反論したりする活動。

イ 報告や連絡、案内などのために、資料に基づいて必要な事柄を話したり、それらを聞いて、質問したり批評したりする活動。

ウ 話合いの目的に応じて結論を得たり、多様な考えを引き出したりするための議論や討論を、他の議論や討論の記録などを参考にしながら行う活動。

エ 集めた情報を資料にまとめ、聴衆に対して発表する活動。

## B 書くこと

(1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。

イ 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫すること。

ウ 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。

エ 目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 論理的な文章や実用的な文章を読み、本文や資料を引用しながら、自分の意見や考えを論述する活動。

イ 読み手が必要とする情報に応じて手順書や紹介文などを書いたり、書式を踏まえて案内文や通知文などを書いたりする活動。

ウ 調べたことを整理して，報告書や説明資料などにまとめる活動。

### C 読むこと

(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 文章の種類を踏まえて，内容や構成，論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え，要旨や要点を把握すること。

イ 目的に応じて，文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら，内容や書き手の意図を解釈したり，文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに，自分の考えを深めること。

(2) (1)に示す事項については，例えば，次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 論理的な文章や実用的な文章を読み，その内容や形式について，引用や要約などをしながら論述したり批評したりする活動。

イ 異なる形式で書かれた複数の文章や，図表等を伴う文章を読み，理解したことや解釈したことをまとめて発表したり，他の形式の文章に書き換えたりする活動。

### 3 内容の取扱い

(1) 内容の〔思考力，判断力，表現力等〕における授業時数については，次の事項に配慮するものとする。

ア 「A話すこと・聞くこと」に関する指導については，20～30単位時間程度を配当するものとし，計画的に指導すること。

イ 「B書くこと」に関する指導については，30～40単位時間程度を配当するものとし，計画的に指導すること。

ウ 「C読むこと」に関する指導については，10～20単位時間程度を配当するものとし，計画的に指導すること。

(2) 内容の〔知識及び技能〕に関する指導については，次の事項に配慮するものとする。

ア (1)のウの指導については，「言語文化」の内容の〔知識及び技能〕の(1)のイの指導との関連を図り，計画的に指導すること。

(3) 内容の〔思考力，判断力，表現力等〕に関する指導については，次の事項に配慮するものとする。

ア 「A話すこと・聞くこと」に関する指導については，必要に応じて，口語のきまり，敬語の用法などを扱うこと。

イ 「B書くこと」に関する指導については，中学校国語科の書写との関連を図り，効果的に文字を書く機会を設けること。

(4) 教材については，次の事項に留意するものとする。

ア 内容の〔思考力，判断力，表現力等〕の「C読むこと」の教材は，現代の社会生活に必要とされる論理的な文章及び実用的な文章とすること。

イ 内容の〔思考力，判断力，表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」，「B書くこと」及び「C読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

ウ 教材は，次のような観点に配慮して取り上げること。

(ア) 言語文化に対する関心や理解を深め，国語を尊重する態度を育てるのに役立つこと。

(イ) 日常の言葉遣いなど言語生活に関心を持ち，伝え合う力を高めるのに役立つこと。

(ロ) 思考力や想像力を伸ばし，心情を豊かにし，言語感覚を磨くのに役立つこと。

(ハ) 情報を活用して，公正かつ適切に判断する能力や創造的精神を養うのに役立つこと。

(ニ) 科学的，論理的に物事を捉え考察し，視野を広げるのに役立つこと。

(ホ) 生活や人生について考えを深め，人間性を豊かにし，たくましく生きる意志を培うのに役立つこと。

(ヘ) 人間，社会，自然などに広く目を向け，考えを深めるのに役立つこと。

(ト) 広い視野から国際理解を深め，日本人としての自覚を持ち，国際協調の精神を高めるのに役立つこと。

## 第2 言語文化

### 1 目標

言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし，他者との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち，言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

## 2 内 容

[知識及び技能]

(1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解すること。

イ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。

ウ 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。

エ 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解すること。

オ 本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解すること。

(2) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。

イ 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解すること。

ウ 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解すること。

エ 時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解すること。

オ 言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めること。

カ 我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めること。

[思考力、判断力、表現力等]

### A 書くこと

(1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にすること。

イ 自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、

文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫すること。

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 本歌取りや折句などを用いて、感じたことや発見したことを短歌や俳句で表したり、伝統行事や風物詩などの文化に関する題材を選んで、随筆などを書いたりする活動。

## B 読むこと

(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えること。

イ 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。

ウ 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること。

エ 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること。

オ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 我が国の伝統や文化について書かれた解説や評論、随筆などを読み、我が国の言語文化について論述したり発表したりする活動。

イ 作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。

ウ 異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動。

エ 和歌や俳句などを読み、書き換えたり外国語に訳したりすることなどを通して互いの解釈の違いについて話し合ったり、テーマを立ててまとめたりする活動。

オ 古典から受け継がれてきた詩歌や芸能の題材、内容、表現の技法などについて調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりする活動。

## 3 内容の取扱い

(1) 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕における授業時数については、次の事項に配慮するものとする。

ア 「A書くこと」に関する指導については、5～10単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。

イ 「B読むこと」の古典に関する指導については、40～45単位時間程度

を配当するものとし、計画的に指導するとともに、古典における古文と漢文の割合は、一方に偏らないようにすること。その際、古典について解説した近代以降の文章などを活用するなどして、我が国の言語文化への理解を深めるよう指導を工夫すること。

ウ 「B読むこと」の近代以降の文章に関する指導については、20単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。その際、我が国の伝統と文化に関する近代以降の論理的な文章や古典に関連する近代以降の文学的な文章を活用するなどして、我が国の言語文化への理解を深めるよう指導を工夫すること。

(2) 内容の〔知識及び技能〕に関する指導については、次の事項に配慮するものとする。

ア (1)のイの指導については、「現代の国語」の内容の〔知識及び技能〕の(1)のウの指導との関連を図り、計画的に指導すること。

イ (2)のウの指導については、〔思考力、判断力、表現力等〕の「B読むこと」の指導に即して行うこと。

(3) 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕に関する指導については、次の事項に配慮するものとする。

ア 「A書くこと」に関する指導については、中学校国語科の書写との関連を図り、効果的に文字を書く機会を設けること。

イ 「B読むこと」に関する指導については、文章を読み深めるため、音読、朗読、暗唱などを取り入れること。

(4) 教材については、次の事項に留意するものとする。

ア 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B読むこと」の教材は、古典及び近代以降の文章とし、日本漢文、近代以降の文語文や漢詩文などを含めるとともに、我が国の言語文化への理解を深める学習に資するよう、我が国の伝統と文化や古典に関連する近代以降の文章を取り上げること。また、必要に応じて、伝承や伝統芸能などに関する音声や画像の資料を用いることができること。

イ 古典の教材については、表記を工夫し、注釈、傍注、解説、現代語訳などを適切に用い、特に漢文については訓点を付け、必要に応じて書き下し文を用いるなど理解しやすいようにすること。

ウ 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A書くこと」及び「B読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

エ 教材は、次のような観点に配慮して取り上げること。



- (ア) 言語文化に対する関心や理解を深め、国語を尊重する態度を育てるのに役立つこと。
  - (イ) 日常の言葉遣いなど言語生活に関心を持ち、伝え合う力を高めるのに役立つこと。
  - (ウ) 思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨くのに役立つこと。
  - (エ) 情報を活用して、公正かつ適切に判断する能力や創造的精神を養うのに役立つこと。
  - (オ) 生活や人生について考えを深め、人間性を豊かにし、たくましく生きる意志を培うのに役立つこと。
  - (カ) 人間、社会、自然などに広く目を向け、考えを深めるのに役立つこと。
  - (キ) 我が国の伝統と文化に対する関心や理解を深め、それらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。
  - (ク) 広い視野から国際理解を深め、日本人としての自覚を持ち、国際協調の精神を高めるのに役立つこと。
- オ 古典の教材は、次のような観点に配慮して取り上げること。
- (ア) 伝統的な言語文化への理解を深め、古典を進んで学習する意欲や態度を養うのに役立つこと。
  - (イ) 人間、社会、自然などに対する様々な時代の人々のものの見方、感じ方、考え方について理解を深めるのに役立つこと。
  - (ウ) 様々な時代の人々の生き方や自分の生き方について考えたり、我が国の伝統と文化について理解を深めたりするのに役立つこと。
  - (エ) 古典を読むのに必要な知識を身に付けるのに役立つこと。
  - (オ) 現代の国語について考えたり、言語感覚を豊かにしたりするのに役立つこと。
  - (カ) 中国など外国の文化との関係について理解を深めるのに役立つこと。

### 第3 論理国語

#### 1 目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、

他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

## 2 内 容

[知識及び技能]

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解すること。

イ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。

ウ 文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めること。

エ 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。

- (2) 文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めること。

イ 情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使うこと。

ウ 推論の仕方について理解を深め使うこと。

- (3) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めること。

[思考力、判断力、表現力等]

### A 書くこと

- (1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めること。

- イ 情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえること。
  - ウ 立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫すること。
  - エ 多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすること。
  - オ 個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰<sup>せき</sup>さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫すること。
  - カ 文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。
- (2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。
- ア 特定の資料について、様々な観点から概要などをまとめる活動。
  - イ 設定した題材について、分析した内容を報告文などにまとめたり、仮説を立てて考察した内容を意見文などにまとめたりする活動。
  - ウ 社会的な話題について書かれた論説文やその関連資料を参考にして、自分の考えを短い論文にまとめ、批評し合う活動。
  - エ 設定した題材について多様な資料を集め、調べたことを整理して、様々な観点から自分の意見や考えを論述する活動。

## B 読むこと

- (1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にししながら要旨を把握すること。
  - イ 文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えること。
  - ウ 主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈すること。
  - エ 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価すること。
  - オ 関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めること。
  - カ 人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異

なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めること。

キ 設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすること。

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 論理的な文章や実用的な文章を読み、その内容や形式について、批評したり討論したりする活動。

イ 社会的な話題について書かれた論説文やその関連資料を読み、それらの内容を基に、自分の考えを論述したり討論したりする活動。

ウ 学術的な学習の基礎に関する事柄について書かれた短い論文を読み、自分の考えを論述したり発表したりする活動。

エ 同じ事柄について異なる論点をもつ複数の文章を読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動。

オ 関心をもった事柄について様々な資料を調べ、その成果を発表したり報告書や短い論文などにまとめたりする活動。

### 3 内容の取扱い

(1) 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕における授業時数については、次の事項に配慮するものとする。

ア 「A書くこと」に関する指導については、50～60単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。

イ 「B読むこと」に関する指導については、80～90単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。

(2) 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕に関する指導については、次の事項に配慮するものとする。

ア 「B読むこと」に関する指導については、必要に応じて、近代以降の文章の変遷を扱うこと。

(3) 教材については、次の事項に留意するものとする。

ア 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B読むこと」の教材は、近代以降の論理的な文章及び現代の社会生活に必要とされる実用的な文章とすること。また、必要に応じて、翻訳の文章や古典における論理的な文章などを用いることができること。

イ 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A書くこと」及び「B読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

## 第4 文学国語

### 1 目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

### 2 内容

[知識及び技能]

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解すること。

イ 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。

ウ 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めること。

エ 文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使うこと。

- (2) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めること。

イ 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。

[思考力、判断力、表現力等]

#### A 書くこと

- (1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にすること。

イ 読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫すること。

ウ 文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫すること。

エ 文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 自由に発想したり評論を参考にしたりして、小説や詩歌などを創作し、批評し合う活動。

イ 登場人物の心情や情景の描写を、文体や表現の技法等に注意して書き換え、その際に工夫したことなどを話し合ったり、文章にまとめたりする活動。

ウ 古典を題材として小説を書くなど、翻案作品を創作する活動。

エ グループで同じ題材を書き継いで一つの作品をつくるなど、共同で作品制作に取り組む活動。

## B 読むこと

(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えること。

イ 語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈すること。

ウ 他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察すること。

エ 文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察すること。

オ 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えると同時に、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めること。

カ 作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めること。

キ 設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

- ア 作品の内容や形式について、書評を書いたり、自分の解釈や見解を基に議論したりする活動。
- イ 作品の内容や形式に対する評価について、評論や解説を参考にしながら、論述したり討論したりする活動。
- ウ 小説を、脚本や絵本などの他の形式の作品に書き換える活動。
- エ 演劇や映画の作品と基になった作品とを比較して、批評文や紹介文などをまとめる活動。
- オ テーマを立てて詩文を集め、アンソロジーを作成して発表し合い、互いに批評する活動。
- カ 作品に関連のある事柄について様々な資料を調べ、その成果を発表したり短い論文などにまとめたりする活動。

### 3 内容の取扱い

- (1) 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕における授業時数については、次の事項に配慮するものとする。

- ア 「A書くこと」に関する指導については、30～40単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。

- イ 「B読むこと」に関する指導については、100～110単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。

- (2) 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕に関する指導については、次の事項に配慮するものとする。

- ア 「B読むこと」に関する指導については、必要に応じて、文学の変遷を扱うこと。

- (3) 教材については、次の事項に留意するものとする。

- ア 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B読むこと」の教材は、近代以降の文学的な文章とすること。また、必要に応じて、翻訳の文章、古典における文学的な文章、近代以降の文語文、演劇や映画の作品及び文学などについての評論文などを用いることができること。

- イ 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A書くこと」及び「B読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

## 第5 国語表現

### 1 目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

## 2 内 容

[知識及び技能]

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解すること。

イ 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けること。

ウ 自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。

エ 実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深めること。

オ 省略や反復などの表現の技法について理解を深め使うこと。

- (2) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 自分の思いや考えを伝える際の言語表現を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。

[思考力、判断力、表現力等]

### A 話すこと・聞くこと

- (1) 話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。

イ 自分の主張の合理性が伝わるよう、適切な根拠を効果的に用いるとともに、相手の反論を想定して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫すること。



- ウ 自分の思いや考えが伝わるよう、具体例を効果的に配置するなど、話の構成や展開を工夫すること。
  - エ 相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫すること。
  - オ 論点を明確にして自分の考えと比較しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を吟味して自分の考えを広げたり深めたりすること。
  - カ 視点を明確にして聞きながら、話の内容に対する共感を伝えたり、相手の思いや考えを引き出したりする工夫をして、自分の思いや考えを広げたり深めたりすること。
  - キ 互いの主張や論拠を吟味したり、話合いの進行や展開を助けたりするために発言を工夫するなど、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。
- (2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。
- ア 聴衆に対してスピーチをしたり、面接の場で自分のことを伝えたり、それらを聞いて批評したりする活動。
  - イ 他者に連絡したり、紹介や依頼などをするために話をしたり、それらを聞いて批評したりする活動。
  - ウ 異なる世代の人や初対面の人にインタビューをしたり、報道や記録の映像などを見たり聞いたりしたことをまとめて、発表する活動。
  - エ 話合いの目的に応じて結論を得たり、多様な考えを引き出したりするための議論や討論を行い、その記録を基に話合いの仕方や結論の出し方について批評する活動。
  - オ 設定した題材について調べたことを、図表や画像なども用いながら発表資料にまとめ、聴衆に対して説明する活動。

## B 書くこと

- (1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 目的や意図に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め、情報の組合せなどを工夫して、伝えたいことを明確にすること。
  - イ 読み手の同意が得られるよう、適切な根拠を効果的に用いるとともに、反論などを想定して論理の展開を考えるなど、文章の構成や展開を工夫すること。

- ウ 読み手の共感が得られるよう、適切な具体例を効果的に配置するなど、文章の構成や展開を工夫すること。
  - エ 自分の考えを明確にし、根拠となる情報を基に的確に説明するなど、表現の仕方を工夫すること。
  - オ 自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするなど、表現の仕方を工夫すること。
  - カ 読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。
- (2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。
- ア 社会的な話題や自己の将来などを題材に、自分の思いや考えについて、文章の種類を選んで書く活動。
  - イ 文章と図表や画像などを関係付けながら、企画書や報告書などを作成する活動。
  - ウ 説明書や報告書の内容を、目的や読み手に応じて再構成し、広報資料などの別の形式に書き換える活動。
  - エ 紹介、連絡、依頼などの実務的な手紙や電子メールを書く活動。
  - オ 設定した題材について多様な資料を集め、調べたことを整理したり話し合ったりして、自分や集団の意見を提案書などにまとめる活動。
  - カ 異なる世代の人や初対面の人にインタビューをするなどして聞いたことを、報告書などにまとめる活動。

### 3 内容の取扱い

- (1) 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕における授業時数については、次の事項に配慮するものとする。
- ア 「A話すこと・聞くこと」に関する指導については、40～50単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。
  - イ 「B書くこと」に関する指導については、90～100単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。
- (2) 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕に関する指導については、次の事項に配慮するものとする。
- ア 「A話すこと・聞くこと」に関する指導については、必要に応じて、発声や発音の仕方、話す速度などを扱うこと。
  - イ 「B書くこと」に関する指導については、必要に応じて、文章の形式などを扱うこと。

(3) 教材については、次の事項に留意するものとする。

ア 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」の教材は、必要に応じて、音声や画像の資料などを用いることができること。

イ 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」及び「B書くこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

## 第6 古典探究

### 1 目 標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

### 2 内 容

〔知識及び技能〕

(1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。

イ 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めること。

ウ 古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。

エ 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めること。

(2) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア 古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること。
  - イ 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めること。
  - ウ 時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めること。
  - エ 先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。
- [思考力、判断力、表現力等]

#### A 読むこと

- (1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えること。
  - イ 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えること。
  - ウ 必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。
  - エ 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。
  - オ 古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。
  - カ 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。
  - キ 関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。
  - ク 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。
- (2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。
- ア 古典の作品や文章を読み、その内容や形式などに関して興味をもったことや疑問に感じたことについて、調べて発表したり議論したりする活動。
  - イ 同じ題材を取り上げた複数の古典の作品や文章を読み比べ、思想や感情などの共通点や相違点について論述したり発表したりする活動。
  - ウ 古典を読み、その語彙や表現の技法などを参考にして、和歌や俳諧、

漢詩を創作したり，体験したことや感じたことを文語で書いたりする活動。

エ 古典の作品について，その内容の解釈を踏まえて朗読する活動。

オ 古典の作品に関連のある事柄について様々な資料を調べ，その成果を発表したり報告書などにまとめたりする活動。

カ 古典の言葉を現代の言葉と比較し，その変遷について社会的背景と関連付けながら古典などを読み，分かったことや考えたことを短い論文などにまとめる活動。

キ 往来物や漢文の名句・名言などを読み，社会生活に役立つ知識の文例を集め，それらの現代における意義や価値などについて随筆などにまとめる活動。

### 3 内容の取扱い

(1) 内容の〔知識及び技能〕に関する指導については，次の事項に配慮するものとする。

ア (2)のイの指導については，〔思考力，判断力，表現力等〕の「A読むこと」の指導に即して行い，必要に応じてある程度まとまった学習もできるようにすること。

(2) 内容の〔思考力，判断力，表現力等〕に関する指導については，次の事項に配慮するものとする。

ア 古文及び漢文の両方を取り上げるものとし，一方に偏らないようにすること。

イ 古典を読み深めるため，音読，朗読，暗唱などを取り入れること。

ウ 必要に応じて，古典の変遷を扱うこと。

(3) 教材については，次の事項に留意するものとする。

ア 内容の〔思考力，判断力，表現力等〕の「A読むこと」の教材は，古典としての古文及び漢文とし，日本漢文を含めるとともに，論理的に考える力を伸ばすよう，古典における論理的な文章を取り上げること。また，必要に応じて，近代以降の文語文や漢詩文，古典についての評論文などを用いることができること。

イ 内容の〔思考力，判断力，表現力等〕の「A読むこと」の(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

ウ 教材は，言語文化の変遷について理解を深める学習に資するよう，文章の種類，長短や難易などに配慮して適当な部分を取り上げること。

### 第3款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。
  - (1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。
  - (2) 「論理国語」、「文学国語」、「国語表現」及び「古典探究」の各科目については、原則として、「現代の国語」及び「言語文化」を履修した後に履修させるものとする。
  - (3) 各科目の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とすること。
  - (4) 「現代の国語」及び「言語文化」の指導については、中学校国語科との関連を十分に考慮すること。
  - (5) 言語能力の向上を図る観点から、外国語科など他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。
  - (6) 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
- 2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。
  - (1) 各科目の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、日常の言語活動を振り返ることなどを通して、生徒が、実際に話したり聞いたり書いたり読んだりする場面を意識できるよう指導を工夫すること。
  - (2) 生徒の読書意欲を喚起し、読書の幅を一層広げ、読書の習慣を養うとともに、文字・活字文化に対する理解が深まるようにすること。
  - (3) 生徒がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
  - (4) 学校図書館などを目的をもって計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。
- 3 教材については、各科目の3に示す事項のほか、次の事項に留意するものとする。
  - (1) 教材は、各科目の内容の〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度を育成す

ることをねらいとし，生徒の発達段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また，必要に応じて音声言語や画像による教材を用い，学習の効果を高めるようにすること。

- (2) 「論理国語」及び「国語表現」は，「現代の国語」の3の(4)のウに示す事項について，「文学国語」は「言語文化」の3の(4)のエに示す事項について，「古典探究」は「言語文化」の3の(4)のイ及びオに示す事項について留意すること。